

年間指導計画表(シラバス)

| | | | |
|-----|-----------|-----|-------------|
| 科目名 | 福祉・介護福祉基礎 | 単位数 | 2(通年) |
| | | 学年等 | 平日登校コース・3年次 |

1 学習の到達目標等

| | |
|---------------|--|
| 学習の到達目標 | 介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援など介護の意義と役割を理解し、介護を適切に行うことができる。 |
| 使用教科書 副教材等 | 介護福祉基礎(実教出版) 介護職員初任者研修テキスト(介護労働安定センター) |

2 評価の観点等

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 技能 | 知識・理解 |
|------|--|---|---|---|
| 趣旨 | 介護に関する諸問題について関心をもち、介護を必要とする人に対して、自立支援の観点に基づいた適切な介護福祉サービスを提供しようとする。 | 介護に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、介護活動の現状や介護の現代的意義や役割、介護を必要とする高齢者や障害者の介護の実際を考えることができる。 | 介護福祉に関する基本的な技術を身に付け、介護に関する諸活動に対応できるようにその技術を適切に活用することができる。 | 高齢者や障害者に対して介護に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、介護の意義や役割を理解し、介護に関する諸問題、人間の尊厳を支える介護、自立に向けた介護について理解することができる。 |
| 評価割合 | 25% | 25% | 25% | 25% |

3 評価の計画

| 学期 | 単元 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 |
|----|---|--|-----------------------------------|
| 前期 | 第1編 介護の意義と役割 ○尊厳を支える介護 ○介護従事者の倫理 | ・ワークシート ・授業・実習での行動観察 ・レポート | ・授業・実習での行動観察 ・レポート |
| | 第2編 介護を必要とする人の理解と介護 ○高齢者の生活と介護 ○障害者の生活と支援 | 12.5% 技能 | 12.5% 知識・理解 |
| | 第3編 介護を必要とする人の生活環境 ○介護と環境 ○自立に向けた介護 | ・レポート ・定期考査 | ・レポート ・小テスト ・定期考査 |
| | | 12.5% | 12.5% |
| 後期 | 第4編 介護福祉の担い手 ○介護従事者を取り巻く状況 ○介護従事者の役割 | 関心・意欲・態度 ・ワークシート ・授業・実習での行動観察 ・レポート | 思考・判断・表現 ・授業・実習での行動観察 ・レポート |
| | 第5編 介護福祉サービスの概要と連携 ○介護サービスの概要 ○介護における連携 | 12.5% 技能 | 12.5% 知識・理解 |
| | 第6編 介護における安全確保と危機管理 ○介護における安全確保と事故対策 ○感染対策 ○介護従事者の健康管理 | ・レポート ・定期考査 | ・レポート ・小テスト ・定期考査 |
| | | 12.5% | 12.5% |

4 指導の計画

| 学期 | 月 | 単元及び学習内容 | 時数 | |
|----|----|---|-----------|---|
| 前期 | 4 | 第1編 介護の意義と役割 ○尊厳を支える介護 基本的人権、尊厳、利用者本位の介護サービス | 8 | |
| | 5 | ○介護従事者の倫理 尊厳、プライバシー保護、専門性と基本姿勢 | | |
| | 6 | 第2編 介護を必要とする人の理解と介護 ○高齢者の生活と介護 高齢者と活動、認知症高齢者、家族関係 | 8 | |
| | | ○障害者の生活と支援 視覚障害、聴覚障害、内部障害、知的障害、精神障害 | | |
| | | | 前期中間考査 | 1 |
| | 7 | 第3編 介護を必要とする人の生活環境 ○介護と環境 生活環境を整えること | 14 | |
| | | 8 | | ○自立に向けた介護 |
| | | 9 | | 自立・生活支援 |
| | | | | 前期期末考査 |
| | | | 前期の学習のまとめ | 3 |
| 後期 | 10 | 第4編 介護福祉の担い手 ○介護従事者を取り巻く状況 介護福祉士の養成、介護従事者のキャリアアップ研修 | 16 | |
| | 11 | ○介護従事者の役割 在宅介護、施設介護従事者の役割 | | |
| | 12 | | 後期中間考査 | 1 |
| | 1 | 第5編 介護福祉サービスの概要と連携 ○介護サービスの概要 ○介護における連携 | 6 | |
| | | 2 | | 第6編 介護における安全確保と危機管理 ○介護における安全確保と事故対策 ○感染対策 ○介護従事者の健康管理 |
| | | | 後期期末考査 | 1 |
| | 3 | 後期の学習のまとめ | 2 | |

5 その他

介護職員初任者研修の学習事項とともに、介護に対するイメージを実習を通して、具体化できるよう積極的に授業に参画してください。定期考査では、80%以上の得点ができるよう、介護福祉に関する知識や技能を積極的に修得するようにしましょう。

年間指導計画表(シラバス)

| | | | |
|-----|------------|-----|-------------|
| 科目名 | 福祉・生活支援技術② | 単位数 | 2(通年) |
| | | 学年等 | 平日登校コース・3年次 |

1 学習の到達目標等

| | |
|---------------|---|
| 学習の到達目標 | 自立を尊重した生活を支援するための介護の役割を理解し、基礎的な介護の知識と技術を習得するとともに、様々な介護場面において適切かつ安全に支援を行うことができる。 |
| 使用教科書 副教材等 | 生活支援技術(実教出版) 介護職員初任者研修テキスト(介護労働安定センター) |

2 評価の観点等

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 技能 | 知識・理解 |
|------|--|---|--|---|
| 趣旨 | 生活支援技術について関心をもち、意欲的に学ぼうとする態度を身に付けるとともに、生活支援技術に関する諸問題の改善・向上を図ろうとする。 | 生活支援技術に関する基礎的な知識と技術を基に、福祉に携わる者として思考を深め、適切に判断し、表現することができる。 | 生活支援技術に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、福祉に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用するとともに、学んだ内容をまとめることができる。 | 多職種と連携のできる介護従事者として、生活支援技術に関する専門的な知識を身に付け、生活支援技術の意義や役割を理解することができる。 |
| 評価割合 | 25% | 25% | 25% | 25% |

3 評価の計画

| 学期 | 単元 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 |
|----|--|----------------------------------|-----------------------|
| 前期 | 〔第2編 自立に向けた生活支援とところとからだのしくみ〕 ○食事の介護 ○排せつの介護 ○入浴・清潔保持の介護 ○終末期・緊急時の介護 ○介護総合演習(研修のまとめ) | ・ワークシート ・授業・実習での行動観察 ・レポート | ・授業・実習での行動観察 ・レポート |
| | | 12.5% | 12.5% |
| | | 技能 | 知識・理解 |
| | | ・レポート ・実技テスト | ・小テスト ・レポート |
| | | 12.5% | 12.5% |
| 後期 | ○レクリエーションにおける介護 ○生活支援に向けたアセスメント ○緊急時の介護 ○終末期の介護 ○リスクマネジメント・感染症対策 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 |
| | | ・ワークシート ・授業・実習での行動観察 ・レポート | ・授業・実習での行動観察 ・レポート |
| | | 12.5% | 12.5% |
| | | 技能 | 知識・理解 |
| | | 12.5% | 12.5% |
| | | 12.5% | 12.5% |

4 指導の計画

| 学期 | 月 | 単元及び学習内容 | 時数 |
|----|----|--|----|
| 前期 | 4 | 〔第2編 自立に向けた生活支援とところとからだのしくみ〕 ○食事の介護 口腔ケア、食事の意義 | 4 |
| | 5 | ○排泄の介護 トイレ介助・便尿器介助・おむつ交換・陰部洗浄 ○入浴・清潔保持の介護 | 4 |
| | 6 | ○終末期・緊急時の介護 | 4 |
| | 7 | ○介護総合演習 ・アセスメント ・ケアプランの立案 | 7 |
| | 8 | ○介護総合演習(研修のまとめ) | 10 |
| | 9 | ・介護職員初任者研修 筆記テスト・実技テスト | |
| | | 前期の学習のまとめ ・前期に学んだ介護職員初任者研修内容理解の確認 | 2 |
| 後期 | 10 | ○ところとからだのしくみと生活支援技術 | 8 |
| | 11 | ○レクリエーションにおける介護 介護予防 レクリエーション計画と実習 | 8 |
| | 12 | ○生活支援に向けたアセスメント アセスメントの基盤と情報収集・健康状態の把握 | 3 |
| | | ○緊急時の介護 外傷・やけど・骨折・その他についての処置 | 3 |
| | 1 | ○終末期の介護 終末期のケア・介護の役割 | 6 |
| | 2 | ○リスクマネジメント・感染症対策 | 5 |
| | 3 | 後期の学習のまとめ ・後期に学んだ介護職員初任者研修内容理解の確認 | 2 |

5 その他

介護の必要な人の生活支援技術について詳しく学びます。身体援助における基礎的な内容でグループワーク・演習・校内実習があります。例えば、おむつ交換、食事介助、洗髪介助などの実習となります。介護の専門用語を身に付け、技術を実施できるよう学びましょう。介護職員初任者研修の履修内容には、下線を引いています。基礎基本を大切にできる介護実践を実践していきましょう。

年間指導計画表(シラバス)

| | | | |
|-----|------------|-----|-------------|
| 科目名 | 福祉・サービスマナー | 単位数 | 4(前期2+後期2) |
| | | 学年等 | 平日登校コース・4年次 |

1 学習の到達目標等

| | |
|-----------|---|
| 学習の到達目標 | 基本的なサービスや接遇を行うのに必要な知識を学び、マナーやコミュニケーション技能を身に付け、対人援助を適切に行うことができる。 |
| 使用教科書副教材等 | サービス接遇検定3級 公式テキスト(早稲田教育出版) 福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト 改訂6版(東京商工会議所) |

2 評価の観点等

| 観点 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 技能 | 知識・理解 |
|------|---|--|---|--|
| 趣旨 | 接遇やコミュニケーションに対する関心をもち意欲的に学ぼうとしている。基本的な対人サービスについて関心をもち、その改善・向上を目指して主体的・実践的に取り組もうとする。 | 社会常識を踏まえ、接遇やコミュニケーションに対する基礎的な知識と技術を基に、対人サービスに携わる者として思考を深め、適切に判断し、表現することができる。 | 接遇やコミュニケーションに対する基礎的・基本的な技術を身に付け、服装やマナーや話し方を適切に活用することができる。 | 接遇やコミュニケーションに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、対人サービスなどの場面において、必要とされる考え方について理解している。 |
| 評価割合 | 25% | 25% | 25% | 25% |

3 評価の計画

| 学期 | 単元 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 |
|----|---|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 前期 | 第1章 暮らしやすい生活環境を目指して ○少子高齢社会と共生社会への道 ○福祉住環境整備の重要性・必要性 ○在宅生活の維持とケアサービス | ・提出課題 ・レポート ・授業・実習での行動観察 | ・提出課題 ・レポート ・授業・実習での行動観察 |
| | | 12.5% | 12.5% |
| | 第2章 健康と自立を目指して ○高齢者の健康と自立 ○障害者が生活の不自由を克服する道 | 技能 | 知識・理解 |
| | | ・提出課題 ・レポート ・授業・実習での行動観察 ・定期考査 | ・提出課題 ・レポート ・授業・実習での行動観察 ・定期考査 |
| 後期 | 第3章 バリアフリーとユニバーサルデザイン ○バリアフリーとユニバーサルデザインの考え方 ○生活を支えるさまざまな用具 | 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 |
| | | ・提出課題 ・レポート ・授業・実習での行動観察 | ・提出課題 ・レポート ・授業・実習での行動観察 |
| | 第4章 安全、安心、快適な住まい ○住まいの整備のための基本技術 ○生活行為別にみる安全・安心・快適な住まい | 12.5% | 12.5% |
| | | 技能 | 知識・理解 |
| | ・提出課題 ・レポート ・授業・実習での行動観察 ・定期考査 | ・提出課題 ・レポート ・授業・実習での行動観察 ・定期考査 | |
| | 12.5% | 12.5% | |

4 指導の計画

| 学期 | 月 | 単元及び学習内容 | 時数 |
|----|----|---|---|
| 前期 | 4 | 第1章 暮らしやすい生活環境を目指して ○少子高齢社会と共生社会への道 | 12 |
| | 5 | 少子高齢社会の現状と課題・地域社会、社会全体の取り組みの必要性 ○福祉住環境整備の重要性・必要性 日本の住環境の問題点、福祉住環境コーディネーターとは | 12 |
| | 6 | ○在宅生活の維持とケアサービス 高齢者の生活を支える介護保険制度、障害者を広く支える障害者総合支援法 | 8 |
| | | 前期中間考査 | 1 |
| | 7 | 第2章 健康と自立を目指して ○高齢者の健康と自立 | 22 |
| | 8 | 健康な一生を送るために役立つ老化のとらえ方、高齢期の健康度 ○障害者が生活の不自由を克服する道 | 10 |
| | 9 | 障害の種類によって変わってくる自立の方策 | |
| | | 前期期末考査 | 1 |
| | | 前期の学習のまとめ | 4 |
| | 後期 | 10 | 第3章 バリアフリーとユニバーサルデザイン ○バリアフリーとユニバーサルデザインの考え方 バリアフリーの誕生と考え方 ユニバーサルデザインの誕生と考え方 |
| 11 | | ○生活を支えるさまざまな用具 生活の中の問題点と用具の活用、共用品 | 16 |
| 12 | | 第4章 安全、安心、快適な住まい ○住まいの整備のための基本技術 | 16 |
| 1 | | 安全、安心、快適な住まい 段差、床材、手すり、建具、家具・収納、色彩・照明、インテリア | 17 |
| 2 | | ○生活行為別にみる安全・安心・快適な住まい 生活に即した安全・安心・快適な住まい 屋外移動・外出 屋内移動(廊下、階段) | |
| | | 後期期末考査 | 1 |
| 3 | | 後期の学習のまとめ | 4 |

5 その他

福祉住環境コーディネーター、サービス接遇検定のテキストを軸に、最近の福祉に関わる政策やニュース等を扱います。日頃から、新聞テレビ等で福祉に関する情報をチェックしましょう。福祉に関する資格取得、高校卒業後福祉系の進学・就職を考えている生徒に対して必要な情報提供も授業の中で行います。目的意識をもって、履修するようにしてください。